

(3) 2011年(平成23年)7月25日(月曜日)

健康管理でリスク回避

OCHIS 「両輪会」を開催



今年4月に発生した
栃木県のクレーン車事

故など、ドライバーの健康を起因とする事故が増加傾向にあることから、大阪ヘルスケアネットワーク普及推進機構(OCHIS)は7日、大阪弥生会館(大阪市北区)で「リスク回避としてぜひ押さえない、企業における健康管理」をテーマに、第8回「安全・健康を

推進する協議会(両輪会)」を開催した。

同協議会代表の作本貞子氏(OCHIS理事長)は、クレーン車の事故を踏まえ、「睡眠時無呼吸症候群とは違い、企業としてフォロー出来ないのは、持病を隠したままでハンドルを握ること」と指し、ドライバーの健

康管理対策の再認識と、事業者のリスク回避対応の必要性について強く訴えた。

今回からは参加者が少人数のグループに分かれてディスカッション方式で行われ、入社の健康状態の把握や独自の社内規定・誓約書のあり方のほか、企業のリスク回避や定期健康診断の実施・事後のフォローの体制、点呼時の対応などについて活発に意見が交わされ、現場の情報を共有

化した。

また、事例提起として梅田運輸倉庫(大阪市福島区)の岩崎小夜子氏が「定期健康診断100%達成に向けて」を、大阪センコー運輸整備(同此花区)の峰森吉和氏が「点呼のあり方」についてそれぞれが自社における取り組みを発表した。なお、協議会終了後には交流会が開かれた。

(山田克明)

(レイアウト・石津あや子)